

自ら考え、進んで表現し、学びを深める指導の工夫

小千谷市立和泉小学校
教諭 近藤 佳織

I 授業改善の視点

これまでの授業改善により、子どもが自分の考えを進んで表現する機会が増え、その質の高まりも見られている。しかし、課題として、「子どもの疑問、気づきを生かした課題設定が弱いこと」「安心して、進んで表現できるような場の設定の工夫が不足していること」があげられる。また、学習指導改善調査の結果から、答えを出すことはできても、自分の考えた過程を説明することに課題があることがわかった。

今年度の研修主題は「自ら考え、進んで表現し、学びを深める指導の工夫」である。和泉小学校では、本時のねらいにせまるための子どもにとっての課題を『◎』とし、子どもの疑問や気づきを生かした◎を指導者を含めた学級全体で共有し、解決に向かうようにすることを中心に授業改善を進めてきた。そして、子どもが自ら考え、進んで表現し、学びを深めるためには、どのような指導の工夫が有効であるか、次の2点を中心に研修を進めてきた。

- ・◎の成立のさせ方、解決の見通しのもたせ方、手がかりとなる掲示の工夫
- ・目的をもたせ、自分の考えを交流する場の工夫

II 実践の概要(6年生)

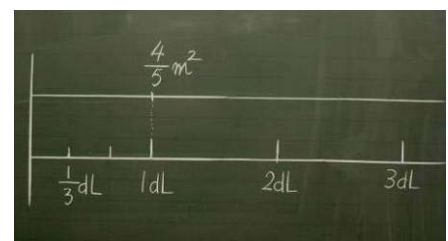
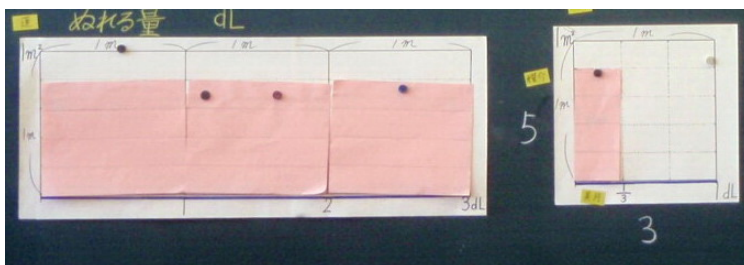
実践1 「分数のかけ算」 (本時1/7:真分数×真分数の計算の仕方を理解し、説明する)

指導の工夫と成果

① 課題を明確にし、分数の乗法の計算の仕方を説明できるよう面積図を活用する。

本時では、1 d Lあたり $4/5$ m²ぬれるペンキを取り上げた。最初に3 d Lでぬれる面積、次に $1/3$ d Lでぬれる面積を考えさせた。既習である分数×整数から真分数×真分数という流れの中で課題を把握しやすくした。また、下に示したような面積図、線分図を準備し、立式やぬれる面積を求める際に活用できるようにした。この流れの中で、かける数が分数の時の困難さを子どもは実感し、課題が明確になるとともに、全体で共有することができた。そして、子どもは、面積図を用いれば、面積が求められそうなこと、既習事項を使えば計算のしかたも考えられそうだという見通しをもつことができた。

面積図は、答えを求める際や既習との違い、量感をつかむ際、そして単位分数に目を向けさせることに有効であった。しかし、これを用いて考え方を説明することは難しく、単位分数という見方が共有されていなかったことや発表の際の図や資料の活用、わかりやすく考えを伝える技法が不十分であることが課題となった。



② 目的に応じたグルーptークを活用する。

どの子にも自分の考えを表現する場を確保したいと考え、個人思考の後、グルーptークを取り入れた。自分の考え方を、ノートを見せながら説明する子がおり、考えが異なる子とのトークで相違点に気付いたり、面積図を使っての説明の仕方に理解が深まったりした子がいた。自力解決につながる場面での活用も視野に入れ、目的に応じて今後も取り入れていく。

③ 既習事項を掲示し、活用する。

分数×分数の計算でも既習事項を活かせばできることを実感させたいと考えた。そのために、学級の共有財産であるこれまでの学習の歩みを提示し、既習事項を応用して考えたり、説明したりできやすくした。掲示を参考に「分数×整数に直せば計算できる」「小数の時と同じように整数に直せばできる」ことを想起した子もおり、自力解決のヒントになった。また、他の子に考え方を説明する際に、掲示物を指しながら伝えた子もいた。単元を通した学びを積み重ねるためにも、既習事項の掲示は有効であった。

実践2 「比とその応用」 (本時6/9:実測できないものも等しい比の性質を活用すれば高さが求められることを理解する)

指導の工夫と成果

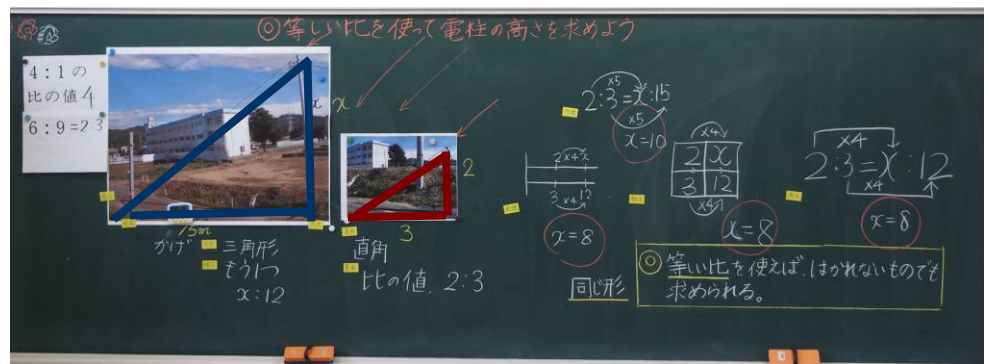
① 単元を通し、これまでの既習事項を活かす。

これまでに学んできた、割合で基準量を1と見ると比較量がそのどれだけに当たるかという見方や、AとBの二つの量を比較するのに1当たりの量で比べる見方もできるなど、比の素地になる既習事項を単元を通して活用させた。また、比の表し方や比の値、比の性質など本単元で新しく学習した事項は、掲示をし、既習事項を使って問題解決ができることに目を向けさせることができた。

② 比を線分図、表などに表して考える。

本時では、全体と求める物の関係をつかみ、自分なりの表現方法で考えを説明させたいと考え、

板書のような線分図や表を活用させた。また、関係を捉えやすくするために対応する辺をわかりやすくした棒や電柱とその影で構成される直角三角形(板書参照)を提示し、等しい比の活用につながるようにした。子どもは、



図で関係をつかめたことで、比に表しやすくなり、線分図や表の活用も進み、自分なりの表現での伝え合いも機能し、理解を深めることにつながった。

③ 交流し、確認したり、相談したり、考えを伝え合ったりし、学びを深める。

個人思考の後、ペアや班の人の考えを聞いたり交流したりする場を単元を通して確保した。このことにより、自分の考えの根拠を見つけたり、自信をもったりすることができた。また、表現する場を確保することで、もう一度自分の考えを見つめ直す機会にもなった。しかし、ペアで話す場面がやや多かったので、交流と個人思考のバランスを考え、目的に応じた学習形態を工夫していくことを考え取り入れていきたい。

Ⅲ 課題

自分たちが解決すべきことが明確になったとき、そして解決への糸口をつかんだとき、子どもの解決への意欲は大いに高まる。そのためには、子どものつぶやきや発言、思考の過程を大切にしながら課題へと結びつけていかなければならない。このような課題を共有させたいうえで個人思考と交流活動を意図的に組み合わせたい授業を構成していきたい。

また、他と交流することで自分の考えに自信をもったり、考えを確かめたり、新たな視点を獲得したりすることができるが、何のために交流をするのか、目的意識をもたせたいうえで行うことが必要である。目的を明確にした交流や話し合いが、自分が考えた過程を相手により分かりやすく伝えようとする意欲や表現の高まりにつながると考えられるからである。今後もこれらのことを意識し、授業改善に取り組んでいきたい。